

次の外声部間の並行完全5度は許容される。

また、 $+6/5$ の和音は、属7の第2転回形と同様に、内声の第5音の2度上行が許される。

短VII⁷和音は、異名同音に読み替えることにより、ただちにすべての遠隔調への転調が可能となる。

[連結例]

また、短VII⁷和音の第2転回形は、プラガル進行をする機能をもつ（主和音I度の基本形へ直接連結する。Pl→T）。この場合の第5音は2度下行する必要はない（4度下行、または5度上行する）。